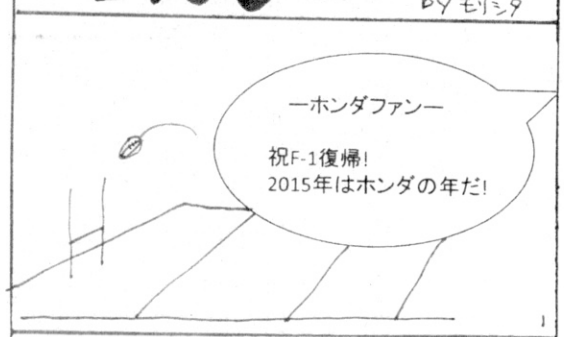
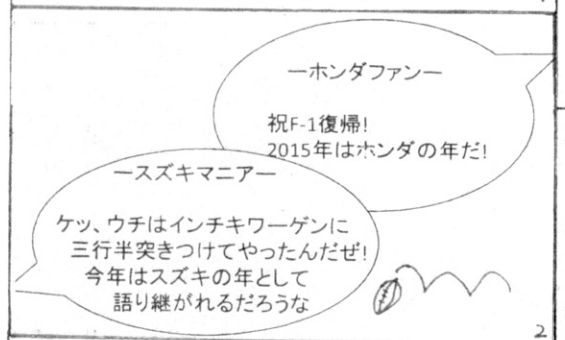
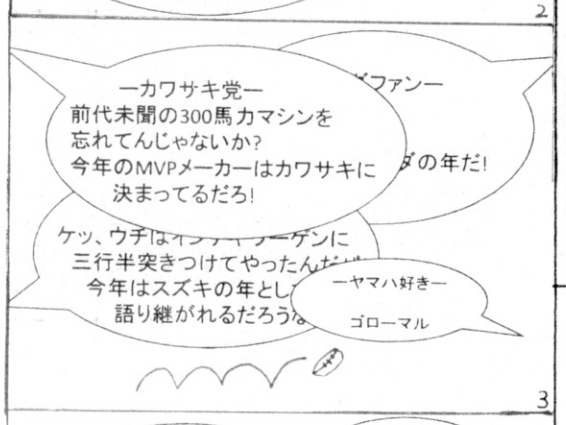
寺崎組新聞　第124号　2015年(平成27年)　11月吉日　http://homepage2.nifty.com/nojyuku/

ごろうまるくん

by モリシタ







ネの姿をした行列等普段見られない独特な地方の風習も見る事ができ、思えば遠くに来たもんだな～と言ってしまった。

山に入る前の想像では、地方でしかも山道であれば酷道であろう？と覚悟を決めていてが、完全2車線たまに追い越し車線もある立派な国道だったため、道際で野宿を決め込んでいた私は、野営地探しに不安がよぎる。買い出しは済ませていたので、先を急ぎながら日も暮れる中、野営地候補を探し進む。小さなスキー場を覗いてみると、夏場はパークゴルフ場となっておりダメ。国道から逸れ、クネクネ県道に入り山頂部分を狙いつつ、景色の良さそうな場所を焦りながら探す。かなり山の奥まったところまで来ているが、牧場が多く香りが漂う。それも考慮しながらも牧草地の柵前の山頂部を今日の野営地とする。牛の鳴き声は聞こえるものの、香りは届かなかった。

どうにか日暮れ前にテントを張り、風も無かったので枯れ枝を集め焚き火の準備。夕食を済ませ一人宴会へ突入。辺りが暗くなったところで焚き火に点火。無風なのか、火柱と煙はまっすぐ夜空へ延び、天の川へと吸い込まれていくようであった。

翌朝は、地方では当たり前？早朝町内放送の爆音でたたき起こされる。しかし、音色に違和感を覚え聞き耳をたてると、さすが三陸！あまちゃんのテーマソングであった。牛が現れる前に食事を済ませサクッと撤収。泊地に感謝し一路久慈を目指す。すぐに国道へ出て久慈渓谷沿いに走り、国道の温度計は16度の表示で肌寒かった。市内に入り道の駅で情報収集後、久慈駅にてあまちゃん観光。写真をパシパシ。意外と観光客が多いことにじぇじぇ。

目的のまめぶ汁は無かったので、駅を後にし、ロケ地である小袖海岸へ向かう。ここは、北限の海女漁で知られ、あまちゃんの原点でもある。駐車場には整理員も配置され、漁港も臨戦態勢で観光客の対応をしている。ここでも写真パシパシ。そして、ここでやっとまめぶ汁にありつく。味の薄い肉なし豚汁のような汁で、代わりに甘い小豆餡とくるみが入ったピンポン玉くらいのだんごが、4～5個入っている。甘いんだか？しょっぱいんだか？まさにじぇじぇじぇな味わいで美味しかったと思います。

サンゴ採取と別休止後、あの土砂崩れ引き起こした枝を反対側から攻める人達

さて、目標は達成したため帰路につく。また山道を越え、高速に乗るのも味気ないと感じてしまった私は、R45を松島まで南下するルートを進んでしまった。R45は、途中無料の自動車専用道路で、全線繋がれば三陸道となり、急ピッチで工事が進行している。リアス式海岸をひたすら南下していくと、津波の被災地を巡ることとなった。あれから4年になるが、今まで写真やテレビの画面でしか見ていなかった景色を、初めて自分の目で見る事になった。しかも、被災した海岸沿いを全て。復旧の進み具合も地域により差はあるものの、R45を南下し感じたことは、まだかなりの人達が仮設住宅で暮らしていることに驚く。高台という高台には、洗濯物が干されている仮設住宅がまだ数多く立っていた。また、防潮堤のかさ上げ工事や高台などへの住宅地開拓などで、いたるところで工事が行われ、ダンプカーの多さに驚愕する。率直なバイク乗りの目線で言ってしまうと、工事現場からの土煙やダンプによる轍も多く、バイクではやや酷なルートではありました。また、防潮堤が大きくなったことで、海がほぼ見えず灰色のコンクリートを横目に走る海岸道路でありました。しかしそんな中でも、生活をしている人、仕事をしている人、学校に通う子供達、人は大勢いてふと、みんなあの津波から生き残った人達なんだと思うと、考え深くなり、何かしなければと自然と湧きでる。

そんな気持ちの中で、陸前高田に入った。なんとも言えない。被災した道の駅が、今も撤去されずに津波の到達点と恐ろしさを伝えていた。また、さっき給油したスタンドでは気が付かなかったが、道の駅からふとそのスタンドの看板が目に入った時、看板の一番高いところにもまた「津波到達点15m」と明記されていた。一人では大きな事は出来ないけれど、何かしら出来る事はやらなければいけないと、深く胸の奥に刻まれた瞬間でった。

陸前高田を出発し再び南下、南下、何かおかしい？岩手をいっこうに出られない。もう日が暮れ始めた。今日中に帰れると思いきや、リアス式海岸マジックとトロトロ運転で距離が進んでいなかった。それでもあきらめず？そんなはずは無いと思い込ませ、再度ひたすら南下。真っ暗になり、やっとこさして松島到着。もう時と気まのた入ととか人をな海ず大ト轍エイプいやいてい台住た港ま海が海日ら何けいまけ

う後の祭り。真っ暗でテントも張る気力が無くなり、住宅地で野宿地も見当たらいためとりあえず煙草をふかし、出た答えは前進あるのみ。常磐道へ突入した。寒い。片側一車線。暗い。SAも閉まった。そんな中ひたすら走ると、線量計が出てきた。あの原発に近づいたのだ。線量計は何キロか毎に設置され、近づくにつれ数値が上がっていくのと同時に町の灯りが無くなったことに気がつく。街灯だけポツポツ意味無く怪しく光り、人家の灯りが無いためか？月と星空が異様に映えていたのが印象に残った。すると、突如明るい場所が目に飛び込んできた。線量も高い箇所。原発であった。長い時間見られなかったが、海沿いの大きな建物は、原発であるとなぜか確信した。発電もしていないのに、と一瞬皮肉を思ったが、今あの場所で作業をしている作業員の人々を思うと、また胸が詰まる。そして、ん？ここはバイクで走って良いのか？と思う・・・。まあいいか。腹が減ったのでSAでラーメンを作り腹を満たす。身体はやはり正直で、睡魔が強襲。今夜の宿はSAの室内とする。都内の渋滞を避けるため4時半起床。太平洋からの日の出を横目にひたすら南下。

常磐道が終わり、やっと首都高に入るが既に帰省本脳は崩壊しており、なぜか都内を避けるように湾岸に入る。ディズニー渋滞に突っ込む。あほである。海を見たかったのか？定かではない。ベイブリッチでみなとみらいを通過し、保土ヶ谷バイパスから東名に入るが、又もや行楽渋滞。あほあほである。厚木で下りるが、その手前の海老名SAに寄る。今回の旅が、あと少しで終ってしまうと思うと、悪あがきか？ゆっくり休憩してしまった。

久々の長距離、心に深く残る岩手であり、みちのくでありました。また行くぞ！まってろ岩手！

記　244号　テネレ三瓶

完

寺崎組廃道・廃墟・廃集落分科会　オフ会報告

列島に残暑より早く秋が到来した9月某日、信州信濃大町より旅は始まったのです。

今回のオフ会は「古の人々の生活を辿る旅」というマニアックな企画であり、参加者は寺崎組廃道・廃墟・廃集落分科会メンバーのひらりんと蹴りバハ河合氏の2名であります。企画第1回目として信濃大町東山地域の廃集落探訪と廃道走行が目的となります。

快晴に恵まれた当日0940、遠路遙々岐阜よりマツダタイタン3代目の3型にバハを積載して河合氏（以下軍曹殿と呼称）到着。ひらりん自宅にタイタンを駐車していざ出発となります。一行は大町市街地を右折して八坂地区（旧八坂村）を目指す。まずは昼飯用にこの地域の食文化である「灰焼きおやき」を買いに地区の温泉施設へ立ち寄るが、なんと予約分で完売との事。仕方なく買い出し場所の池田町へ向けて1本目の廃道？へ向かう。

ケリセローイ仕様ナララー バハと本物の山岳仕様バハ

県道55号線より大平地区へ左折し、藤尾集落方面へ。藤尾には覚音寺があり準国宝級の千手観音像が安置されている。鎌倉期の建立とされこのような山深い場所に古くから信仰の対象として存在していることに改めて驚きます。我々は藤尾覚音寺を横目に日野地区を目指す。大町より東山の裏手に位置し、崩落しかけたコンクリート舗装や切り通し的な道が通る地区だが、その昔は「平家物語」の中で「朝日将軍」とも呼ばれた源義仲こと木曽義仲の家老？である原氏が義仲の嫡子をつれて青年期まで身を寄せたとの言い伝えもあるとの事であり、歴史深い地区であるが、今は数件を残す限界集落である。ちなみにこの原氏の子孫の原さんは大町在住で私の親戚にあたる。また、真珠湾の9軍神の中の1名の方はこの地区の出身で、街道沿いのお堂近辺にお墓があると聞いたことがあります。

さて日野を過ぎると大峰地区に出ます。ここは池田町広津地区となり、かつてオーキャンの取材で組長が厳寒キャンプをした場所です。ここから一路池田町へ下り県道51号線にて町中心部へ。しかしスーパーは町の南部に位置しており、時間の節約のためにやむなくセブン・イレブンにて買い出しとなりました。その後再び県道51号から右折し広津地区を縦断する県道274号を北上する。この広津地区も廃集落が多い地域です。まずは昼飯場所として旧広津小学校跡地を目指す。約15分で到着。周辺を探索後ラーメンを食べる。この跡地は校舎が一部残っており体育館等は充分使用に耐える状況で、廃校後も地区の行事で利用されていたと考えられる。校舎の一部は近年デイサービスセンター的に改良されて使用されていたようだが、こんな山奥に利用者が殺到するとも思えず、閉所されて久しい模様です。

この広津地区は昭和32年までは広津村でしたが、人口減少等にて解体消滅し、周辺の池田町・旧八坂村・生逆村に分離統合され現在に至ります。マラソンで一時有名だった中山選手もこの地区の出身でした。そんなこんなで昼食後はいよいよ本日のメインイベント旧美麻村高地地区の探訪に出発します。

県道274号に戻り、すぐに左折し八坂方面に向かう。途中にはやはり廃集落の三ッ農を通過、壊れたコンクリート舗装と苔むしたアスファルト路面にスピードも上がらず何とか県道55号に到着後、県道497号にて一路美麻地区を目指す。美麻地区も八坂地区同様、平成の大合併で大町市の一部となりましたが、以前は麻やたばこの栽培が盛んな地域で現在でも蕎麦の有名な地域です。しかし山間部で平地の少ない地域ですので、昭和30～50年代にかけての高度成長の波に乗れずに過疎化の進展した場所でもあります。その中でもこれから訪れる高地地区は、昭和30年代から急激な人口流出がおこりまして、430人の人口が9人にまで激減しました。（現在は移住された家族が2組在住されているらしい）これほどの人口流出は当時でも珍しく、昭和40年頃に明治大学の学術調査が入ったり報道関係者の取材が大挙押し寄せたとの記録がありました。

編集後記

地下鉄■ゴローマルって何だ。ノックオンって何だ？ゴミ箱■あのーもっちょっと臨場感ある写真がっ。O型■あのーすいません。今回は写真ばっかりでモリシタ■やーすいません　今回もわかりにくくて。いやー今回は仕事で写真出さなくて

記　ひらりん（つづく）